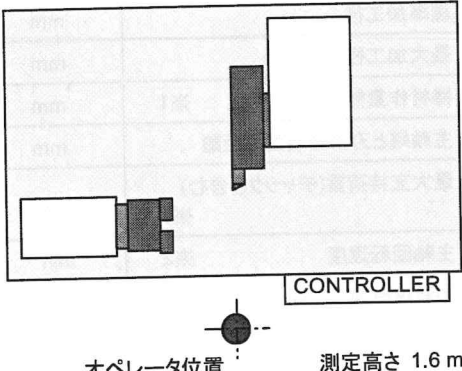


1 機械本体の標準データ

1-1 本機の主な仕様

- 芯間 500U

項目			単位	QTN-200	QTN-250
能力・容量	チャック・サイズ		inch	8	10
	最大スイング		mm	φ610	
	標準加工径		mm	φ264	
	最大加工径		mm	φ350	
	棒材作業能力 ※1		mm	φ65	φ77
	主軸端と刃物台端面の距離		mm	130~660	123~638
	最大支持荷重(チャックを含む) ※3		N (kgf)	2940 (300) [チャックワーク] 6860 (700) [シャフトワーク]	3920 (400) [チャックワーク] 6860 (700) [シャフトワーク]
主 軸	主軸回転速度 ※2		min ⁻¹	35~5000	35~4000
	加減速時間 ※4		sec	2.8	
	主軸貫通穴径		mm	φ76	φ88
	モータ出力(30 分定格)		kW (HP)	日本、アジア 18.5 (25) 日本、アジア以外 26 (35)	26 (35)
	最大トルク		N・m (kgf・m)	日本、アジア 326 (33.3) 日本、アジア以外 353 (36.0)	353 (36.0)
テール ストック	テールスピンドル穴型式		MT	5	
	移動量(テールストック)		mm	550	525
	最大推力		N (kgf)	6867 (700)	
刃物台	工具本数		本	12	
	工具サイズ	外径旋削	mm	□25	
		内径旋削		φ40	
	割出し時間	one/full	sec	0.2/0.65	
送り軸	早送り速度	X/Z	m/min	30/33	
	早送り時定数	X/Z	msec	85/90	
	移動量	X	mm	190 (185+5)	
		Z		535 (530+5)	515 (510+5)
その他	クーラントタンク		L	150	
	電源容量(連続/30 分)		kVA	日本、アジア 31.50/36.75 日本、アジア以外 41.19/47.05	41.19/47.05
総 合	大きさ	心高	mm	1020	
		全長 ※2		日本 2200 日本以外 2530	2530
		全幅		1780	
		全高		1840	
	フロアスペース ※2		m ²	日本 3.92 日本以外 4.5	4.5
	機械質量		kg	4800	4900

項目		単位	QTN-200	QTN-250
騒 音	騒音値(LWA)	dB	75	
	不確定値(K)		4	
	測定条件	1. 主軸回転数 4000 min ⁻¹ (チャックによるワーク保持) 2. 送り軸駆動 3. タレットインデックス作動 4. チップコンペア ON 5. テールストック未使用		
	測定方法	EN-12415/12417/12478, ISO230-5		
	測定位置	 オペレータ位置 測定高さ 1.6 m (注) この機械の空気伝導騒音の主音源は下記を含む ・主軸ドライブ ・送り軸ドライブ ・タレットインデックス ・チップコンペア		
注記: 提示した騒音値は参考値であり、必ずしも安全作業レベルの値ではありません。作業者が実際にさらされる騒音環境は、機械自身の他に、作業部屋や他の騒音も含まれ、機械の数・他の隣接する次工程・作業者がさらされている時間にも影響されます。また、許容される作業への騒音環境も国により異なります。つまり、提示した騒音値と実際の騒音値には相関性がありますが、更なる予防措置が必要かどうかを判断決定するために、この提示した騒音値のみ信頼して使うことはできません。 以下に原文を示します。(EN-12415/12417/12478 の序文より) The figures quoted are emission levels and are not necessarily safe working levels. Whilst there is a correlation between the emission and exposure levels, this cannot be used reliably to determine whether or not further precautions are required. Factors that influence the actual level of exposure of the work-force include the characteristics of the work room, the other sources of noise, etc. i.e. the number of machines and other adjacent processes, and the length of time for which an operator is exposed to the noise. Also the permissible exposure level can vary from country to country. This information, however, will enable the user of the machine to make a better evaluation of the hazard and risk.				

※1 中空チャック装着時。

※2 チャック仕様により異なります。

※3 ワーク保持装置の剛性・保持力は考慮されていません。

※4 標準チャックにて最高回転数の 85% (速度到達)です。負荷イナーシャにより加減速時間は変化します。

注意: 本説明書で示されている数値と機械に取り付けてある銘板の数値が異なるときは、銘板の数値を使用してください。